

令和2(2020)年度及び第三期中期目標期間(見込)業務実績等報告について

○地方独立行政法人制度における評価の仕組み

- ・地方独立行政法人法第78条の2に基づき、各事業年度の業務実績及びその自己評価結果を明らかにした報告書を評価委員会へ提出
- ・評価委員会は、業務実績等報告書等に基づき、評価(年度評価)を実施

※今回は4年度目終了時に当たるため、中期目標期間終了時に見込まれる実績の評価(見込評価)を実施(4年間の実績+残り2年間の見込)

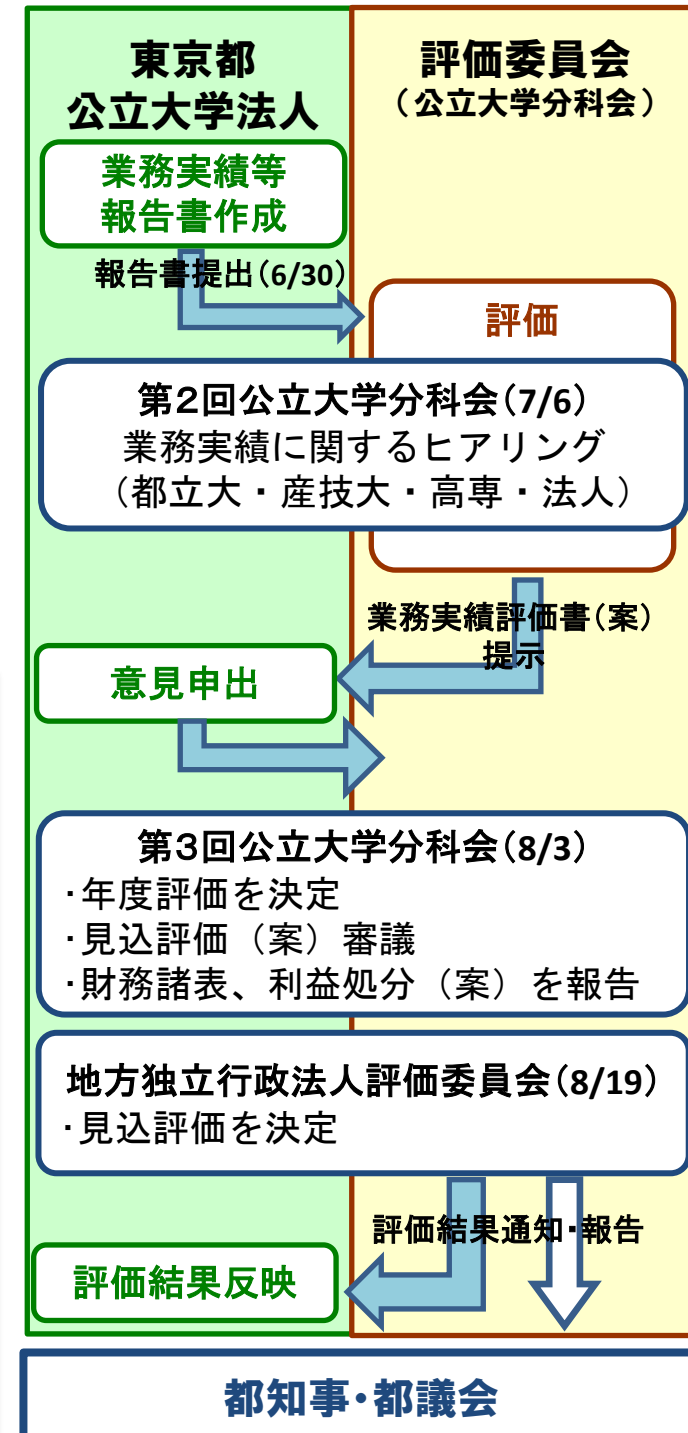
→見込評価を受け、都は、法人に係る組織及び業務の全般にわたる検討を行い、所要の措置を講ずるほか、次期中期目標の策定に反映

※中期目標期間終了時には、中期目標期間中の実績の評価(期間実績評価)を実施

<1 自己評価の状況>

	第三期中期目標期間(見込)						令和2(2020)年度					
	項目数	S	A	B	C	D	項目数	S	A	B	C	D
東京都立大学	11	1 (9%)	4 (36%)	6 (55%)	0 (0%)	0 (0%)	56	4 (7%)	11 (20%)	41 (73%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 大学院大学	9	2 (22%)	6 (67%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	21	5 (24%)	10 (48%)	6 (29%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 高等専門学校	9	1 (11%)	3 (33%)	5 (56%)	0 (0%)	0 (0%)	24	3 (13%)	9 (38%)	12 (50%)	0 (0%)	0 (0%)
法人共通 (組織運営基盤)	6	0 (0%)	2 (33%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	33	4 (12%)	4 (12%)	25 (76%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	35	4 (11%)	15 (43%)	16 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	134	16 (12%)	34 (25%)	84 (63%)	0 (0%)	0 (0%)

<2 業務実績評価の流れ>



業務実績等報告における自己評価

年度計画・中期計画の実施状況を検証し、S・A・B・C・Dの5段階で自己評価する等、業務実績等報告書を作成

評価	評語
S	計画を当初予定より大幅に上回って実施している。
A	計画を当初予定より上回って実施している。
B	計画を当初予定どおり実施している。
C	計画の実施状況が当初予定を下回っている。
D	計画の実施状況が当初予定を大幅に下回っている。

<令和2年度業務実績における自己評価Sの項目>

- 都立大
 - 【1-07】オンライン授業の円滑実施のためのeラーニングシステム改善等
 - 【1-22】研究成果の発信とオープンユニバーシティ講座における学術研究成果の還元
 - 【1-23】組織的戦略的な研究推進、大学フェロシップ創設事業に申請・採択
 - 【1-40-2】プレミアム・カレッジの研究生コース新設、志願者確保の取組等
- 産技大
 - 【2-01】研究科再編初年度として、開発・設計した学位プログラム等を着実に実施
 - 【2-04】デジタルを活用した大学・高専教育高度化プランに申請・採択
 - 【2-07】PDCAサイクルによるマネジメント機能を強化、授業評価結果の改善
 - 【2-11】オンラインによる大学院説明会、高度専門職業人の資質を有する志願者確保
 - 【2-18】AIITフォーラムのオンライン開催、修了生コミュニティの支援
- 高専
 - 【3-01】職業教育プログラムによるものづくり技術者の育成、修了生輩出
 - 【3-15】特別推薦入試制度の実施に向けた取組、荒川区と協定締結
 - 【3-16】女子学生確保に向けた取組、女子の合格者数が過去最高に
- 法人共通
 - 【4-10】産技大 2-01・2-04の再掲、【4-11】高専3-00・3-01の再掲
 - 【4-13】働き方改革推進計画(案)の全体像の策定、自宅勤務の実施促進
 - 【4-16】都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金を設置し、広く寄附を集める

令和2年度及び第三期中期目標期間（見込）の主な実績（都立大）



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

■教育に関する取組 ～豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成を目指し、教育改革を推進しました～

教育内容・成果

■教育研究等の質の向上

- ★オンライン形式の授業において、音声、画面共有等の不具合や受講者からの問い合わせ等に対応できるようにTA等を配置するとともに、学生の教育能力の向上やコロナ禍において収入を得る機会を失った学生の生計の一助としました。
- ・ **新たな大学院分野横断プログラム「超高齢社会学際プログラム」を令和3（2021）年9月に開講することを決定**しました。
- ・ 学業成績優秀な大学院進学希望の学部生への大学院授業科目の早期履修制度について、既存の理学研究科、経営学研究科に加え、人間健康科学研究科においても新たに導入しました。
<早期履修者：52名（延べ119科目）>

- ・ **教育の質の改善に貢献が認められる優れた取組に対して「ベスト・ティーチング・アワード」を授与し、当該取組を実施した教員を優秀教員として表彰する制度を新設**し、令和元（2019）年度ベスト・ティーチング・アワード3件、特別賞1件を選出しました。



【授与の様子】

- ・ **学生が自身の所属に関わらず、多様な科目を文理の枠を超えて主体的に履修する仕組み**について、全学共通教育プログラムに導入するため、検討を進めました。
- ・ 令和4（2022）年度の開講に向けて、**データサイエンス・AI等に関する新たな副専攻プログラムの検討**を開始しました。

【見込評価】TA等の配置科目拡大、新規大学院分野横断プログラムの開講、文理の枠を超えて履修する仕組みを全学共通教育プログラムへ導入、データサイエンス副専攻プログラムの開講

教育の実施体制

■教育の質の改善に係る取組

- ・ ディプロマ・ポリシーで定めた「育成する人材像」、「獲得すべき学修成果」及び「その他の教育成果等の達成状況」を検証して、教育改善につなげるため、**機関（大学全体）レベル、教育課程（学部・学科）レベル、科目（授業）レベルの3段階においてアセスメント・ポリシーを策定・公開**しました。
- ★コロナ禍において多くのFD関連セミナー等をオンライン形式により実施するとともに、教職員等が後日視聴できるよう動画を配信しました。また、FDセミナーにおいて初めて学生による発表を取り入れるとともに、FD・SDセミナーでは学生からの声を直接聴く「座談会」を実施しました。
<セミナー開催数：14回／参加教員数：944名>
- ★ **オンライン授業（前期）の効果検証等のため、アンケートをWEBで実施し、満足度について、学部1年生60%程度、学部2～4年生75%程度、大学院生80%程度と高い数値が示された。**



【FD・SDセミナー】

■学修環境の整備・拡充

令和2年度S項目

コロナ禍におけるオンライン授業等に対応するため、ネットワーク機器の増強や郵送による図書館サービスを実施し、学生の学修環境を確保しました。

【主な取組】

- ★eラーニングシステムkibaco（資料の配布、参考資料・文等の掲載、小テスト実施等）をオンライン授業で活用するため、サーバーの増強やメモリーの増設を実施
- ★授業担当教員、学生向けに「オンライン授業サポートページ」を開設
- ★Wi-Fiルーター及びノートパソコンの貸出
- ★郵送による図書の貸出及び複写サービスを実施



【eラーニング総合案内】

【見込評価】教学IRデータ分析のさらなる活用、博士後期課程の活性化、FD活動の活性化、ネットワーク強化やシステム改善等による学修環境の整備

S項目

入学者選抜

■大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の確保

- ★令和3（2021）年度入試について、新たな入試制度に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた制度変更及び実施方法等に基づき、入学者選抜要項及び多様な選抜の各募集要項を作成し、公表しました。
- ★ **新型コロナウイルス感染症対策として、参集型の大学説明会は全て中止し、都立大WEBサイトにおいてWEB大学説明会を開催**（7月7日～9月30日）しました。**<延閲覧数：63,598回名>**
- **高大連携等の推進**
 - ★オンラインによる「高校生探求ゼミナール」を企画・実施（9月15日～11月24日）しました。

【見込評価】AO入試等の多様な選抜による募集人員を全体の30%に拡充、大学説明会におけるオンラインコンテンツの充実

学生支援

■学生支援の充実

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、オンライン等を活用した各種学生支援を実施しました。

【主な取組】

- ★学生相談室では、電話やメール、オンライン等の相談方法を充実させ、学生のこころの健康の維持に貢献
- ★国の高等教育の修学支援新制度、法人の授業料減免制度及び都立大独自の緊急支援金の給付による経済支援を実施
- ★障がい学生支援のため、オンラインでの支援スタッフ説明会や遠隔での文字通訳を行うシステム（在宅でのパソコンノートテイク等）を導入
- ★キャリア支援行事及びキャリア相談をオンライン等の非対面方式で実施

【見込評価】ボランティアプログラムのリデザイン、学生支援の充実、授業料減免や奨学金等の経済支援の実施、キャリア支援の強化

令和2年度及び第三期中期目標期間（見込）の主な実績（都立大）



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

■ 研究に関する取組 ～学術研究の動向や社会ニーズの変化に迅速・柔軟に対応し、世界をリードする重点的な研究を支援・強化しました～ 東京都立大学

研究

■ 東京都立大学の研究センターにおける外部資金 獲得額の目標達成に向けた取組

評価結果反映事項

対応報告事項

外部資金の獲得額拡大のため、各省庁や資金配分機関が個別に取りまとめている主要な公募情報をURAでまとめ、各教員の研究内容との親和性を加味した上で個別に周知しました。また、申請時の資金配分機関との折衝、研究成果の事業化計画の策定及び市場調査等を行い、申請書作成支援を実施しました。

■ 研究成果の発信と還元

令和2年度S項目

・海外科学ニュースサイト EurekaAlert! で優秀な研究内容を発信し、理学部生命科学科の安藤香奈絵准教授の研究成果が日本国内の大学で唯一、年間閲覧数10位以内（第9位）にランクインする快挙を遂げました。

★オープンユニバーシティにおいて、最先端の研究成果を発信するため、研究センター紹介シリーズ「科学が開く未来への扉」及び都立大教員の専門的かつユニークな研究を紹介する「プレミアム講座」をオンラインで開講しました。

■ 組織的かつ戦略的な研究推進の取組

令和2年度S項目

URAを中心とした研究支援体制を強化し、文部科学省の補助事業である「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」に採択されました。

■ 将来を担う若手研究者の支援・育成の推進

国際的に先駆的かつ独創的な優れた研究を重点的に支援し、都立大の将来を担う研究者の育成を図ることを目的とした研究支援制度を創設し、支援を開始しました。

■ 先端研究環境の整備・先端的課題の研究

・高度通信社会における課題解決型研究やSociety5.0の実現に向けた社会実装が期待される研究を推進するため、南大沢キャンパス及び日野キャンパスに、国内最大級となるローカル5Gネットワーク環境を整備し、運用を開始しました。

★5G事業のキックオフミーティングとして、オンラインシンポジウムを開催し、国内外に研究機関としての魅力を発信しました。

<参加者：781名>

・挑戦型研究2課題、社会実装型研究1課題を採択し、ローカル5G環境を活用した研究プロジェクトを新たに開始しました。



【シンポジウム】

【見込評価】 トップ10%論文の割合10%以上、国際共著論文の割合33%以上、ローカル5G環境を活用した研究の実施、トップ研究者の招へい

■ 社会貢献に関する取組 ～東京2020大会も見据え、専門的知見や教育資産を都政・都民へ発信・還元しました～

社会貢献

■ 障がい者スポーツの普及振興

★障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大のため、パラアスリートへのインタビュー動画をWEBで配信しました。

■ 東京都等との連携強化、学際的プロジェクト等の情報発信

東京都等との連携事業の推進や行政ニーズと研究シーズのマッチング機能の強化に取り組みました。

【主な取組】

- ★オンラインによる施策提案発表会の開催
- ・2大学1高専版の連携事業ガイド及び研究者ガイドの作成
- ・島しょエリアの産業活性化プロジェクトに関する成果発表会を実施
- ・東京都下水道局と法人による包括連携協定の締結
- ・国連アカデミック・インパクト(UN Academic Impact)に加盟



【都立大×パラアスリート
動画配信プロジェクト】

■ 東京都立大学プレミアム・カレッジの運営

令和2年度S項目

50歳以上のシニアを対象とした「学び」と「新たな交流の場」である東京都立大学プレミアム・カレッジについて、広報活動の拡充及びカリキュラムの充実を図りました。

【主な取組】

★プレミアム・カレッジの授業が体験できるオンラインイベントを開催

<総視聴回数：4,068回>

- ・「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに、科目の新設・拡充
- ・本科（1年目）、専攻科（2年目）に加え、さらに最長2年間の専門的な研究を進めることができる「研究生コース」を令和3（2021）年度から新規に開講する体制を構築

【見込評価】 都連携プロジェクトの推進、障がい者スポーツの普及振興、大学発ベンチャー支援の促進、生涯学習環境の更なる充実、多摩地域における産学公連携拠点の具体化

■ グローバル化に関する取組 ～国際社会で活躍できる人材を育成するため、国際通用性のある教育研究環境の整備を進めました～

グローバル化

■ グローバル化の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の海外派遣、外国人留学生の受入及び各種国際交流プログラム等の実施が困難である中、以下の取組を実施しました。

【主な取組】

- ★オンラインによる留学情報の周知や留学英語講座や「留学帰国交流会」を実施
- ★都市外交人材育成基金及びアジア人材育成基金で受け入れた留学生が一堂に会する年次総会をオンライン開催
- ★アジアの政治・経済・社会をテーマにグループで英語論文を執筆、発表するアジア・リーダーシップ・プログラムをオンライン開催

■ 外国人留学生の受入国の多様化等に向けた取組

対応報告事項

英語実施科目の充実や提供を検討する部局に対する支援、欧米圏の協定校に対する個別のアプローチによる戦略的な広報、新規協定校開拓等に向けた取組を実施するなど、外国人留学生の受入国の多様化等のための取組を進めました。

【見込評価】 在籍留学生900人に拡大するためのWEBによるプロモーションの検討、派遣留学生1,350人程度達成に向けて奨学金プログラム等を実施、オンライン対応も考慮した国際交流プログラムの検討・開催

令和2年度及び第三期中期目標期間（見込）の主な実績（産技大）



東京都立
産業技術大学院大学

■ 教育に関する取組 ～産業の活性化に貢献する高度専門職業人の育成に向け、先進的教育手法を更に充実させました～

教育内容・実施体制

■ 教育内容、教育の評価・改善

令和2年度S項目

★ 1専攻3コース体制へと研究科を再編した初年度として、**カリキュラムを着実に実施**しました。〈事業設計工学コース、情報アーキテクチャコース、創造技術コース〉

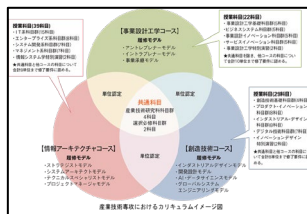
【主な取組】

・ **企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新しい学位プログラム（事業設計工学コース）を開始**

★ オンライン授業導入やオンデマンド授業との組み合わせ等の工夫を行い、予定していたカリキュラムを着実に実施

・ **文部科学省の公募事業「大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に採択**

・ 内部質保証室の新設、授業評価アンケートで全授業評価平均 4.37（5段階評価）



【見込評価】 社会情勢や産業界のニーズを的確に反映できるよう教育内容や方法を改善、他大学等との3つ以上の連携事業を実施、内部質保証システムの改善

入学者選抜

■ 志願者獲得に向けた効果的な広報活動の展開

令和2年度S項目

積極的な情報発信により、令和3（2021）年度4月入学における**産業技術専攻全体の志願倍率は1.56倍**に達し、コロナ禍においても十分な定員を確保しました。

【主な取組】

・ ホームページやSNSを通じた積極的な広報

★ **新たに授業プロモーション動画、教員紹介動画及び施設紹介動画を制作・公開**

★ **新たに大学院案内をデジタルパンフレット化**

・ ロールモデル集を活用した情報発信

★ **オンラインによる大学院説明会やバーチャルキャンパスツアーを実施**



【施設紹介動画】

【見込評価】 オンライン等を活用した大学院説明会の実施、**S項目** 高度専門職業人としての資質を有する学生を獲得

■ 社会貢献に関する取組 ～社会のニーズに応える学修環境の整備を推進しました～

社会貢献

■ 社会人リカレント教育の充実

令和2年度S項目

★ 「ICT分野」、「ものづくり・デザイン分野」、「起業・創業・企業内新事業・事業継分野」の最新トピックスをテーマとした**公開講座「AIITフォーラム」等をオンラインで開講し、1,546人の延べ参加者（視聴回数）を集めました。**

★ 起業に挑戦するシニア層の学びの場である**AIITシニアスタートアッププログラム**について、文部科学省の「**職業実践力育成プログラム**」（BP）として**実施**しました。

■ 都や区市町村等との連携強化

★ 都や区市町村等と連携講座を実施する等とともに自治体職員向け研修等【AIITフォーラム】の対象を島しょ地域まで拡大し、自治体職員の人材育成に貢献しました。



【見込評価】 AIITフォーラム、履修証明プログラム、AIITシニアスタートアッププログラム等を開講し、社会人のキャリアアップを支援

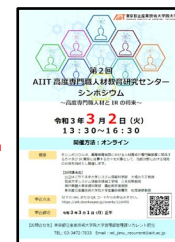
研究

■ 教育研究成果の発信

★ 令和3（2021）年度以降のIR導入を視野に入れ、AIIT高度専門職人材教育研究センターにおいて、「**高度専門職人材とIRの将来**」をテーマに**オンラインシンポジウムを開催**しました。

■ 開発型研究の推進

研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として**4つの研究所を新設し、合計7つの学際的な研究所を運営**しました。また、令和3（2021）年度からは合計9つの研究所を運営する準備を整えました。



【シンポジウム】

【見込評価】 AIIT高度専門職人材教育研究センターにおいて教育研究成果を発信、学際的な研究所の運営

■ グローバル化に関する取組 ～アジア諸国等の大学と連携して国際的な教育活動等を展開しました～

グローバル化

■ グローバル人材を育成する教育の推進

★ コロナ禍においても学生の「グローバル人材」に関するコンピテンシー向上の機会を提供すべく**オンラインを活用して海外と共同で行うPBLを実施**しました。

【テーマ】 アジア／アフリカに対するデジタルSDGsの政策提言

【相手先大学等】 ラオス中央銀行、アフリカ開発協会、ダルマプルサダ大学、アフリカ開発協会、日本国駐箚リベリア共和国特命全権大使、東ビサヤ州立大学

・ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標について、基準を満たす学生を確認し、令和2（2020）年度は78.4%の修了生が基準を達成しました。

【見込評価】 グローバルPBLの推進、グローバル人材として獲得すべき能力指標の基準を8割の学生が達成、**S項目** アジア諸国等の大学との連携強化

■ アジア諸国等の大学との連携

アジア諸国の大学等との交流を促進し、連携を強化しました。

【主な取組】

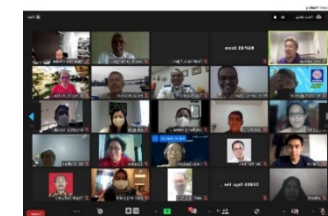
★ アジア諸国の大学等とのネットワーク（APEN）を活用し東ビサヤ州立大学（フィリピン）との共催でオンラインウェビナーを開催

★ メルボルン大学（オーストラリア）のシンクタンクであるAsialinkと国際交流の意見交換会をオンライン開催

★ BINUS大学（インドネシア）との共催でオンライン国際シンポジウムを2回開催



【オンラインウェビナー】



【オンライン国際シンポジウム】

令和2年度及び第三期中期目標期間（見込）の主な実績（高専）

■ 教育に関する取組（教育の内容、学生支援） ～産業界のニーズに応える新たなカリキュラムを展開しました～

教育内容

■ 新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成

品川は本科教育コース再編のカリキュラム等を策定し、荒川は医工連携教育・研究プロジェクトの令和3（2021）年度開始の教育プログラムの準備を整えました。

■ 新たな職業教育プログラムの実施 **令和2年度S項目**

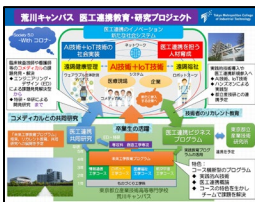
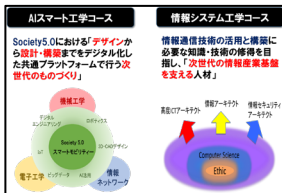
産業界や社会のニーズに応える2つの**職業教育プログラム**を【品川コース再編概要】**実施し、ものづくり技術者の育成に向けた教育を推進**しました。

【主な取組】

- ・情報セキュリティ技術者育成プログラムで**本科9名と、初の専攻科3名の修了生輩出**、情報セキュリティ関連企業へ就職、専攻科や大学・大学院へ進学 **＜履修生37名＞**
- ・航空技術者育成プログラムで**7名の修了生を輩出**、航空関連企業へ就職、専攻科や大学へ進学 **＜履修生30名＞**

★社会人向けの情報セキュリティ教育をオンラインで実施 **【荒川医工連携教育・研究プロジェクト概要】**

【見込評価】品川の新コース再編、荒川の新教育プログラムと共同研究の開始、**S項目** 情報50人以上・航空20人以上の修了生輩出



■ 課題発見・解決型実践的教育の展開

★創造的な技術者育成のため、コロナ禍でも感染対策やオンラインの活用によりアクティブ・ラーニングやデザイン思考を取り入れた**課題発見・解決型の実践的教育を展開**しました。

■ 多様な課外活動の支援・経済的支援の拡充

コロナ禍における支援に加え、従前の課外活動経費や資格試験等受験料の支援を実施しました。

【主な取組】

- ★**新型コロナウイルス感染症に関する経済支援**の周知
- ★**オンラインによる学生相談**の実施

・クラブ活動指導員の導入

＜高専ロボコン2020関東甲信越地区大会で3チームが特別賞＞

【見込評価】アクティブ・ラーニング等の推進課題発見・解決型の実践的教育、**学生のための多様な課外活動支援・相談体制整備・経済的支援**



【高専ロボコン部】



【ロボット研究同好会】

■ 教育に関する取組（入学者選抜）

入学者選抜

■ 多様な学生の確保

意欲ある志願者確保のため、**入学者選抜の見直しやホームページを活用した積極的な広報**を実施しました。

【主な取組】

- ・荒川区との**特別推薦入試制度拡充の正式決定**
- ★公式ホームページの女子中学生向けコンテンツの充実と**「受験生応援サイト」開設**



【受験生応援サイト】



【女性エンジニアとの対談記事掲載】

＜全志願者及び全合格者数における女子の割合増、合格者数過去最多＞

【見込評価】令和4（2022）年度特別推薦入試を実施し最大4名の合格者、女子の志願者・合格者の増加、意欲ある志願者の確保

■ グローバル化に関する取組 ～世界で活躍できる技術者を育成しました～

グローバル化

■ 国際的に活躍できる技術者の育成

2つの海外体験プログラムをコロナ禍でも実施できる形で整備・実施しました。

【主な取組】

- ★グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）は中止し、令和3（2021）年度はオンラインの活用・参加定員6名増
- ★国際ナショナル・エデュケーション・プログラム（IEP）は国内での英語研修やオンライン交流等の代替プログラムで実施（プレIEP） **＜参加者20名＞**



【プレIEP】

【見込評価】GCP・IEP参加者70人、令和3（2021）年JABEE受審専攻科一部専門科目の英語教育導入検討

■ 研究に関する取組 ～ものづくりスペシャリストの育成に資する研究を推進しました～

研究

■ 研究活動の活性化、若手教員への支援

若手教員を中心に科研費獲得のための応募書類添削や個別面談を実施し、令和2（2021）年度採択件数は過去最高となりました。

■ 都立大・産技大との共同研究

★「大学・高専連携事業基金」事業「第三期共同研究～専攻科Co-Labo.」において5件の共同研究を実施し、コロナ禍においても国内で開催する国際学会で研究成果を発表をすることで、2件終了することができました。

【見込評価】科研費や外部資金獲得支援、特別研究期間制度年間最大4人、都立大・産技大との共同研究

■ 社会貢献に関する取組 ～地域と連携して、ものづくり人材を育成しました～

社会貢献

■ 若年層の情報セキュリティ技術者教育

★感染対策を行い、中学生向けの体験型情報セキュリティイベント**「サイバーセキュリティTOKYO for Junior」（2日間）と「ICT基礎Lab. for Junior」（4回）を開催**しました。

■ 地域貢献等

★感染対策を行い、中小企業の技術者対象に「若手技術者支援のための講座」（5講座）や、オープンカレッジ講座を品川1講座、荒川2講座を実施しました。

【見込評価】中学生向け・都職員向け情報セキュリティ研修、地元自治体等と連携した技術者支援



【サイバーセキュリティTOKYO for Junior】



【ICT基礎Labo. for Junior】

戦略的な法人運営

■ 組織運営の改善に関する取組 ～法人の更なる飛躍の実現に向けた取組を推進しました～

■ プレゼンス及び認知度の更なる向上とトップマネジメントの強化

4月に大学名を「東京都立大学」、「東京都立産業技術大学院大学」、法人名を「東京都公立大学法人」に名称変更し、プレゼンス及び認知度の更なる向上に向け、各大学・高専の重点的な取組を実施しました。

■ 組織体制の強化

内部統制体制の強化、都連携体制の充実、教職員人事制度の運用・改善を進めました。

【主な取組】

- ・都立大大学院入試問題漏えい等の事故を受けた全学的な再発防止策の着実な実施
- ・令和元（2019）年度に強化した都連携推進体制を中心に東京都下水道局との法人の包括連携協定を契機として同局と新たに2件の共同研究

★オンライン等の感染対策を行った上での職員研修の実施

対応報告事項

評価結果反映事項

<TOEIC600点以上の職員比率 : 22.7%>

<都立大女性教員比率 : 20.3%>

■ 各大学・高等専門学校等の運営体制強化

経営・教学のトップ層の意向を施策展開に迅速に反映させました。

【見込評価】 戦略的な法人経営、次期中期計画や財政フレームの策定、教学マネジメントの推進、TOEIC600点以上職員比率25%以上、都立大女性教員比率20%以上

卒業生・同窓会等

■ 財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

■ 寄附金獲得額の拡大

令和2年度S項目

対応報告事項

★「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設け、約3千万円の寄附を集め、学生に支援を行いました。また、銘板の設置など寄附者に対する顕彰制度の充実を図り、寄附意欲の促進を図りました。



【都立大寄附者銘板】

■ 同窓会等との連携を強化

都立大では同窓会が令和3（2021）年4月から一般社団法人となることを受け、法人化後の連携の方向性を取りまとめるなど、各校で卒業生との結びつきを強化する取組を実施しました。

【見込評価】 寄附しやすい環境を整備、同窓会との連携やホームカミングデー等の母校への愛校心醸成

戦略的な情報発信

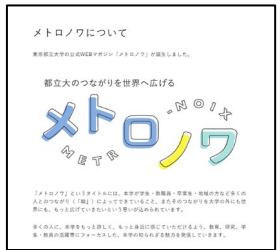
■ 法人、各学校ごとの戦略的な情報発信

各大学・高専の認知度を一層高めるため、**ブランディングを意識した積極的な広報を展開**しました。

【主な取組】

- ・法人：専門家の知見により、各大学・高専の強みやターゲット別の効果的な広報手法を明確化
- ・都立大：TMU PR Guidebookを作成・教職員へ配布、WEBマガジンを開設
- ・産技大：様々な媒体で産技大の教育成果を発信
- ★高専：公式ホームページに特設の「受検生応援サイト」を開設

【見込評価】 ターゲット別等の戦略的な広報活動を展開、総合ホームページと大学案内のリニューアル、ホームページやSNSの活用



【都立大WEBマガジン】

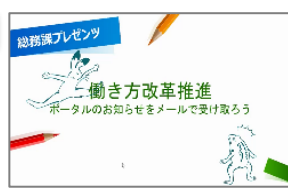
業務改善・施設等整備

■ 事務の効率化・合理化、その他業務運営に関する取組

■ 効率的な業務運営の推進

令和2年度S項目

★**自宅勤務の促進やオフピーク通勤の柔軟な運用などコロナ禍後の多様な働き方の実現へつなげる取組を推進**しました。**新財務会計システムの導入**や施設予約システムの本運用の開始など、業務効率化を推進しました。



【職員作成の働き方改革推進関連動画コンテンツ】

■ 都立大のキャンパス整備

都立大のキャンパスグランドデザイン及び施設の再配置計画の策定、スペースマネジメントルールの土台となる定義の決定、日野キャンパス新棟の実施設設計の完成など、都立大のキャンパス整備に向けて取り組みました。

【見込評価】 働き方改革推進計画（案）に基づく業務改善、旅費システム導入、令和4（2022）年度日野キャンパス新棟完成

法令遵守

■ 研究費不正使用の防止

過去の不正事例の周知など研究不正行為や研究費不正使用の防止に向けて取り組んだほか、コンプライアンス研修を実施し、受講率は教員、職員とも100%を達成しました。

■ 情報セキュリティ対策の強化

対応報告事項

評価結果反映事項

情報セキュリティ意識の向上を目的に実施しているe-ラーニング研修を常勤教職員全員が受講しました。また、都立大の規定を改正し、システムの利用資格の前提として研修受講が必須であることを明文化しました。さらに、職員のテレワーク環境の整備に当たってセキュリティ対策を行いました。

【見込評価】 特定温室効果ガス排出量5年平均で17%以上削減、コンプライアンス研修受講率100%